

# 静岡県食と農の基本計画(2022~2025)の構成

## 基本方向1

生産性と持続性を両立した次世代農業の実現

### (1) デジタル技術等を活用した農芸品の生産性向上

- DX・先端技術の活用等による高度化・効率化**
  - 先端技術等を活用した研究開発と関連産業のビジネス展開の促進
  - スマート農業技術の導入促進
- 土地利用型農業の生産性向上**
  - 担い手への農地集積面積の拡大
  - 茶産地の構造改革の推進、果樹産地における生産性向上など
- 施設園芸拠点の整備と畜産経営の大規模化・安定化**
  - 施設野菜・花きの生産施設整備
  - 家畜防疫体制及び環境対策の強化など
- 産地収益力を強化する基盤整備**
  - 品目別基盤整備プロジェクト
  - 農業水利施設の保全と管理体制の強化など



生産現場へのスマート農業技術導入

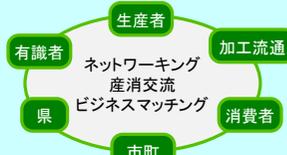


生産基盤の整備

<成果指標>  
 農業産出額  
 1,887億円(2020年)  
 ⇒2,400億円(2025年)  
 担い手への農地集積面積  
 26,512ha(2020年度)  
 ⇒30,481ha(2025年度)

### (2) 農業生産における環境負荷の軽減

- 有機農業等の推進**
  - 農業者への技術支援、消費者への啓発や情報発信
  - 環境負荷軽減に資する先端技術の開発など
- 温室効果ガスの排出削減技術の導入促進**
  - 省エネ機器等の導入促進、排出削減に向けた栽培技術の見直し
  - 炭素貯留につながる土壌管理技術の開発など
- 資源の有効活用**
  - 資源循環やバイオマス活用、小水力発電施設の導入の促進



生産から消費まで一貫した有機農業の取組推進

<成果指標>  
 有機農業の取組面積  
 418ha(2020年度)  
 ⇒620ha(2025年度)

### (3) 次代を担う農業経営体の育成

- 農業経営者の確保・育成**
  - 新規就農者の確保、ビジネス感覚を有する農業経営者の支援
  - 農林環境専門職大学における農林業経営・生産のプロフェッショナル人材の育成
- 農業現場を支える多様な人材の活躍推進**
  - 多様で幅広い人材の活用
  - 農福連携の推進



農林環境専門職大学におけるプロフェッショナル人材育成

<成果指標>  
 持続可能な農業経営体数  
 4,163経営体(2019年)  
 ⇒4,400経営体(2025年)

### (4) 市場と生産が結びついた「ふじのくにマーケティング戦略」の推進

- ふじのくにマーケティング戦略に基づく販路開拓**
  - 首都圏等への販路拡大と流通・供給体制の強化
  - 域内完結型サプライチェーンの構築による新たな需要開拓
  - DXによる農林水産品の供給システムの構築
- ブランド力による付加価値向上**
  - セレクション商品のブランド力向上
  - 農林漁業者の新商品開発(6次産業化)等の支援
- ニーズに対応した生産・出荷体制への転換**
  - 実需の要望に対応する認証等の取得推進
  - 競争力強化のための新品種・技術の開発
  - 茶の需要に応じた生産構造への転換と新たな商品の開発
  - 食肉センターの整備・運営など
- 輸出拡大の取組支援**
  - マーケットインによる「輸出産地」の形成
  - 県産品の輸出体制の強化など



山の洲への新たな商流・物流網の構築



清水港等を拠点とした輸出

<成果指標>  
 農業生産関連事業の年間販売額  
 1,138億円(2019年)  
 ⇒毎年1,100億円  
 県産農林水産品の山の洲3県(山梨県、長野県、新潟県)への流通金額  
 41億円(2020年度)  
 ⇒50億円(2025年度)  
 しずおか食セレクション販売額  
 440億円(2020年度)  
 ⇒500億円(2025年度)  
 清水港の食料品の輸出額  
 247億円(2021年)  
 ⇒350億円(2025年)

## 基本方向2

人々を惹きつける「都」づくりと持続可能な農村の創造

### (1) 人々を惹きつける都づくり

- 「食の都」づくり**
  - 食の都づくりを牽引する人材の育成や魅力ある県産食材の情報発信
  - 地産地消・「バイ・シズオカ」県民運動の展開
  - SDGs達成に向けた食文化の推進
- 「茶の都」づくり**
  - 国内外における「茶の都しずおか」の魅力発信
  - 静岡茶の愛飲の促進
- 「花の都」づくり**
  - 浜名湖花博20周年に合わせたイベント等、花に触れる機会の創出
  - 学校等における花育の推進

<成果指標>  
 「バイ・シズオカ」「バイ・ふじのくに」「バイ・山の洲」の取組に参加した県民の割合  
 59%(2021年度)  
 ⇒70%(2025年度)  
 緑茶出荷額全国シェア  
 55.6%(2019年度)  
 ⇒60%(2025年度)  
 花き県内流通額  
 103億円(2019年度)  
 ⇒120億円(2025年度)



「バイ・シズオカ」県民運動の推進



「ガストロノミー・ツーリズム」の推進(例: 茶やその文化に触れるツーリズム)



「世界お茶まつり」の開催

### (2) 美しく活力のある農村の創造

- 多様な主体の参画による農村コミュニティの再生・創造**
  - 美しく品格のある邑づくり活動の推進
  - 集落道、情報通信基盤等の生活環境の整備
  - 鳥獣被害対策の推進
- 農村地域の魅力を活用した交流促進**
  - 食・農が惹きつける「人の流れ」の拡大
  - マイクロツーリズムの推進による交流・関係人口の拡大
  - 滞在型グリーンツーリズムの推進
  - 地域資源を活用した取組の推進
  - 世界農業遺産を活かした地域活性化
- 農村地域の防災減災対策の推進**
  - 防災重点農業用ため池の防災・減災対策
  - 農地・農業施設を活用した流域治水の推進など

<成果指標>  
 ふじのくに美しく品格のある邑づくりの参画者数  
 73,058人(2020年度)  
 ⇒87,600人(2025年度)  
 鳥獣による農作物被害額  
 297百万円(2020年度)  
 ⇒270百万円(2025年度)



農村マイクロツーリズムの推進



世界農業遺産を活用した交流促進



ため池等による防災減災対策の推進